**アンケートピックアップ**

**12月18日　株式会社ネオラボ　取締役社長　COO 大川智弘　氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

ビジネスにおいては、弱みを克服するよりも強みを伸ばす方が競争力が上がる。強みに基づいた役割分担を図で表しているのを見て、とてもわかりやすく、理にかなっていると感じた。廃止、簡素化、標準化、集約化、ＩＣＴ化、組織化という順序を考えていて、それが必要かどうかを決断する。この考えはいろいろなことに使える考え方だと感じた。知的欲求心（歴史や概念の行く末を見届けたい）といったものを大切にし、具現化していくと、ビジネスにつながったりする。この考え方は自分に合っていると感じたので、自分の知的欲求心を大切にしたい。社内ベンチャーの特性　①心理的安全性②信用創造の時間短縮③意志決定時に考慮する関係者が多い　はとても参考になりました。（経営学部　１年）

自分自身の資質を分析して、経営に反映しているところが勉強になりました。まずは、自分自身の素質を知ることで、自分のするべきことが見えてくるのだと感じました。「自分の文脈を増やす」という言葉が印象に残りました。自分自身が考えたこと、経験したことに飛び込んでいくことで、人脈も広がり次の段階へとつながると聞き、経験することの大切さを学びました。「知りたい、分かりたい」という欲求、その欲求のために行動することで、世界が広がり、考えも広がり、考えも深まるのだと感じます。考え、行動自体も構造化することで見えてくる新たな発見があると学びました。（経営学部　1年）

意思決定とは「決めて、断つ」ことである。何かやりますということは簡単であるが何かを断ることは難しいと考えているためこの言葉には共感した。また意思決定をする際に６つの要素に分けて考えること、特にそれが必要なのかどうかを考えることは今後真似していきたい。また自らを活かす領域を選択し続ける、そのために自分の文脈を持ち、自分の強みを探すことの大切さをわかりやすく講義していただいてとても有意義な講義だった（理工学部　建築学科　１年）

自分の強みが何なのかを知った上で、自分はどのような立ち位置でネオラボに貢献できるのかを見極めて、実行している点が素晴らしいと思いました。ビジネスにおいて弱みよりも強みを伸ばしていけという言葉は、これからの参考にしていきたいと思います。ベンチャー企業のスタートアップ事情についてふれる機会が今までなかったので、新鮮でした。「外部環境の変化に対応していくことがほとんど」という言葉の意味が分かるよう、今後の活動を通して学んでいきたいと思いました。（経営１年）

“強みに基づく自己認識を高める”が何を意味しているのか、最初は分かりませんでした。しかし、戦略的に自分の弱みを克服するために時間をさくのではなく、強みを伸ばすことがビジネスをする上で大切だということに驚き、そして理解しました。今までの方々と違い、自身の会社や事業などを丁寧にロジックを用いてお話されていたので、とても分かりやすかったですし、経営資源の再配分とは何なのか深く理解することができました。個人として成し遂げたいことを目標として設定し、自分をとことんどっぷりはめていくことができるからこそ大川さんは成功できたのだと思いました。（経営学部　１年）

会社で3カ月や半年ごとで常に人材を切り替えながら成長していった時期もあったと聞き、そんなにも沢山の人材の切り替えがあるなんて大変だと思ったし、その変わっていく人々をまとめるのも難しいだろうけれど、やるべきことに合わせて思い切って人も変えていく姿勢が成功につながったのだと思った。大学4年生の時に社会人1年目として会社に入っていたと聞き、驚いた。早いうちに社会人経験をしておくことも大切だと思った。廃止→簡素化→標準化→集約化→ICT化→組織化という順で決断と意思決定を行うことを自分でもしてみようと思った。大学3年生の段階でビジコンに出て、その賞金で人を雇って立ち上げるという行動力も見習うべきところだと思った。（理工学部　化学・生命系学科　2年）

横国出身という方ということで、親近感が持てました。「ゴキゲンスパイラル」お客様、仕事、仲間、収益みんながゴキゲンでいるというお話、とてもいいなと思います。細やかなビジョンやコンセプトはないけれど、これは大切にしているとのことでしたが、やはり一言でわかりやすく表現できる根っこというのは、どの企業にも必要だと思います。理念の共有は組織運営においてとても重要だと思います。どういう経験を辿って現在の境遇にいるのかという説明、わかりやすくてとても参考になりました。自分の身において考えられる話は有益なので、もっと聞きたいです。（経営学部　１年）

好奇心の向く世界に飛び込んで自分が語れる文脈を増やしていくことが大学生活において大切であるということを学びました。まずは自分の欲求に忠実になって、その自分の欲球や好奇心がどれだけ自分の強みと一致するかを分析する必要があると知りました。まずは自分の興味のあるものに積極的に参加して、アクションを起こしていきたいです。今は学科の授業で学べるAIやプログラミング等に非常に興味があります。今の日本にはAIについての技術者が少ないと聞くので、私はこの分野について積極的に学び、自分の強みにしたいと思いました。（理工学部　１年）

ベンチャー企業の社長に多い理想形ではなく、現実路線でありながら大きな目標を達成していくというのはとても新鮮に映りました。ただ自分のやりたいことに無謀に突っ走るのではなく、自分の強みを考えることで戦略的に取り組むというのは参考になりました。ぼんやりとしている文脈をできることに繋げる、というのは難しいことだと思いますが、自分の文脈を確立していくことによって人格が強固なものになると思います。今の自分を見つめ直し文脈についてよくよく考えてみたいです。（経済学部　１年）

「０から１を作るよりも今ある何かを育てていくほうが自分には向いている」という言葉が印象に残りました。今までは起業というと何か新しいものを作ることだけを思い浮かべていましたがあるものを強化していくという方法もあるのだと気付きました。また、大川さんは弱点を補っていくというよりも、強いところをとことん強くしていくスタイルを貫いていて、参考になるなと思いました。自分が興味を持っていることとその強みをどう生かしていくかを考えてみようと思いました。（経営学部　１年）

私は本日の講義を聞き、一つのことに特化した経営でありながら、その時々の状況に対応していくというスタイルを両立されていることに感銘を受けました。今までの起業家の方々の中には、大学生のときに限り、だったのかもしれませんが、どちらかというと様々な経験をしておくべきとおっしゃる方がいました。その方と比べると正反対のことを言っていたため新鮮でした。今日のお話を聞いて、自分のルールを決め、それを貫く必要があると考えました。(都市科学部 環境リスク共生学科2年)

ゴキゲンスパイラルという言葉が印象に残りました。「ゴキゲンな方がいい方向に進む」というのは当たり前のことだと思いますが、単純だけれどとても大切だと思いました。（教育学部　学校教育　3年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

自分の持つ文脈を増やすというテーマの話について、少しそれるかもしれないが、自分のロケーション(居場所)を増やして多くのコミュニティに所属するのが大事であり、そうしていきたいと思ったことを思い出しました。居場所を複数個用意することは、その分、ルーツ、文脈の増加にもつながると思うので頑張りたい。(都市科学部　都市基盤学科　1年)

これまでの重要な意思決定は何だったのか、というお話を聞いて、先ばかりを見るのではなくこれまでの選択を振り返ることも大事だと思った。そうすることでこうした選択はこうなる傾向があるというような反省点や今後に活かせるところが学べると思った。（理工２年）

「何もやらないこと」はもちろん「何も捨てずに全部を中途半端にやること」も意味がない、もったいないことだと気づいた。短い時間の中で取捨選択をしていく。(都市科学部　都市社会共生学科　1年)

私は現在、SEQ(スチューデントEQ)と呼ばれる自分自身の特性について学ぶものに活動しています。自分が、どのような性格(外面、内面、対人間etc.……)をもっているのか、知ることができ、どのような点が高く、どのような点が低いのかに気づくことができます。それについて再度見直し、自分と向き合ってみたいと思いました。(教育学部　学校教育/国語科　1年)

大川さんが講演の最後におっしゃっていた「強みを見つけるためには、自分が自分で何か行動をしなければならない」という言葉を覚えて、まずは大川さんが紹介してくださった「さあ、才能に目覚めよう」の本を買って、自分で読んで実生活にいかしたいと思います。（経営学部　1年）

**授業スタッフの感想**

今回の大川さんの講義でもっとも驚いたのが、大川さんが自分も所属するSDF(宇宙開発フォーラム実行委員会)の2011年度の代表をなさっていたということだ。その他にもフォーミュラのサークルに所属していたり、様々なビジコンに参加して優勝したりと大学生活の密度がすごいと思った。講義後におっしゃっていた「24時間のキャパを埋めて燃えにいくことで、自分の限界を知ることができて良い経験になる」というお言葉には共感したので大学生活のうちにやりたいと思う。非常に良い刺激を受けた。

今までの登壇者の中でも、かなりロジカルな方だなという印象を受けました。これまでは思い切ってとにかくやってみて、自分が選んだ道を正解にする、というタイプの経営者がほとんどでした。しかし、大川さんは挑戦することや経験することの重要性も知っていて、実際行動に移している一方で、冷静さや謙虚さが他の起業家さんたちよりも強く感じられ、このような起業家も素敵だなと思いました。